

ステップ アップ 『日進月歩』

努力することをやめない。
神様は、努力が好きなのです。

パリューゴルフ
VALUE GOLF
www.valuegolf.co.jp

アスリートのあり方

サッカーのワールドカップ・ロシア大会で、日本チームがベスト16に入った。サッカー後進国の日本が、決勝トーナメントに進めたことは快挙である。選手の数は、ドイツのブンデスリーガのチームに所属し、スペイン、フランス、イングランドなどヨーロッパのチームで活躍している選手が多く、世界の強豪たちとあるときはチームメイトになり、あるときはライバルとして揉まれている。日本のサッカーは、アルゼンチンのメッシや、ポルトガルのC・ロナウドなどの突出した人材が活躍するというよりは、サッカーを組織で戦っているイメージが強い。

元来日本は、個人プレーの競技よりは、野球やバレーボールのようなチームプレーが要求される競技の方がいい成績を残しているように思われる。それは日本民族の農耕型という特殊性なのかもしれない。

一方で、弓と矢を持って、獲物を追うような狩猟の民族は、個人プレーに秀でていとも言われている。ゴルフというスポーツも、どちらかというと個人プレーの色彩が強いゲームであるが、実は一人の選手を中心としたプロジェクト型のスポーツに変化してきている。日々の食事を管理する料理人や栄養士はもちろんのこと、試合のギャラやスポンサー収入などを管理する会計士、さらには選手によっては弁護士から医者までがスタッフに加わる。そして以前からであるが片腕とも言われるキャディの存在。つまり、選手が単独で競技に関わっているケー

スはあまり見られなくなってきた。

最近、日本のトーナメントのプロアマ戦で、同伴のアマチュア選手から強いクレームを受けた男子プロ選手がいたが、自分の力のみでゲームに勝利し、自分の力のみで選手生活を送っていると、勘違いをしたことから起こるマナー違反が原因であった。トーナメントで選手が獲得する賞金は、入場者収入や試合のスポンサー収入、テレビの放映権、テレビのスポンサー収入などから構成されているのだが、さらにはその試合を運営するためには、たくさんのボランティアの皆さんや、コースの運営管理者などの支えがないとトーナメントは成立しない。世界のスポーツが、グローバル化する中で、日本の選手たちも自らがアスリートとして存在する理由を世界のトッププレーヤーから学んで欲しいと思っている。



戸張 捷 Sho Tobari

1945年、東京生まれ。
高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業(現SRIスポーツ)に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。